

# 2023年3月期第1四半期 決算説明資料



2022年8月10日（水）

株式会社 **力ネ力**

# 目次

---

<b>業績概要</b>	<b>1</b>
<b>セグメント別 売上高・営業利益</b>	<b>2</b>
<b>事業概況</b>	<b>3</b>
<b>貸借対照表</b>	<b>7</b>
<b>連結業績予想などの将来予測情報</b>	<b>8</b>

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



# 業績概要

(単位：億円)

	2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	増減	
			金額	%
売上高	1,641	1,927	286	17.4%
営業利益	118	122	4	3.1%
経常利益	108	148	40	37.1%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	78	105	28	35.6%
<b>1株当たり四半期純利益</b>	<b>118.91円</b>	<b>161.22円</b>		

## (世界経済の状況—先行き不透明感が高まる—)

- コロナ感染問題の緩和により社会が正常化に向かい、緩やかな回復
- ウクライナ情勢の長期化や原燃料価格の高騰、中国・上海ロックダウンや欧米での歴史的インフレ進行と金融引き締め、為替の変動やサプライチェーンの混乱が重なり、先行きの不透明感が高まる

## (当社グループの業績—増収増益—)

- 環境が激変するなか「Adaptability」力を発揮し、コア事業群（Vinyls、MOD、Fiberなど）、先端事業群（Health Care、E&I、MSなど）強いモメンタムを継続
- 増収増益



# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	増減		2022年3月期 1Q	2023年3月期 1Q	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	69,967	88,919	18,951	27.1%	9,311	10,756	1,444	15.5%
Quality of Life SU	40,856	45,000	4,144	10.1%	4,586	4,600	13	0.3%
Health Care SU	13,220	16,623	3,403	25.7%	2,310	3,856	1,546	66.9%
Nutrition SU	39,753	41,879	2,125	5.3%	1,429	806	△623	△43.6%
その他	308	316	7	2.4%	177	186	9	5.4%
調整額	-	-	-	-	△ 5,967	△ 7,994	△2,027	-
計	164,106	192,739	28,632	17.4%	11,848	12,212	363	3.1%

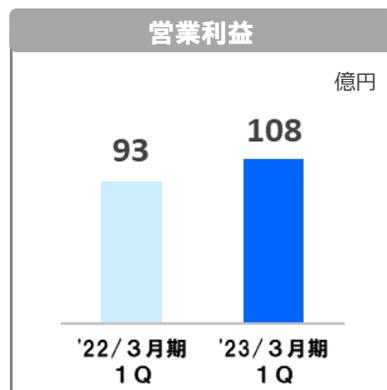
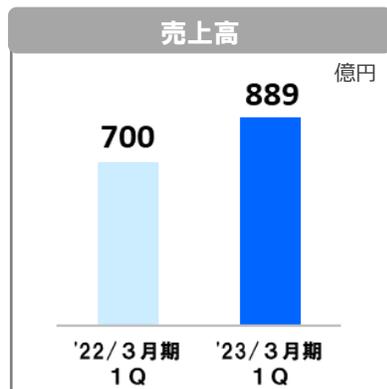
※SU : Solutions Unit



# 事業概況 (Material Solutions Unit)

売上高 889億円 (前年同期比 +27.1%)

営業利益 108億円 (前年同期比 +15.5%)



## Vinyls and Chlor-Alkali

- アジア市場の堅調な需要拡大が継続
- か性ソーダは海外市況が高値で推移し、収益増に貢献

## Performance Polymers (MOD)

- 欧米の建材用途などで需要の減速がみられるなか、価格転嫁を進めて収益を確保

## Performance Polymers (MS)

- 欧米での販売が順調に拡大
- カーボンニュートラルの実現に向けて、欧州での断熱改修や省エネ化が促進され、シーリング材・接着剤市場の拡大が見込まれ、ベルギーで能力増強を決定、グローバルにさらなる能力増強を検討
- セメダイ株式会社を完全子会社化。シナジー効果を最大化、事業の強化を進める

## Green Planet

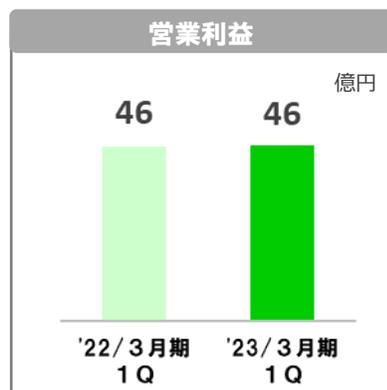
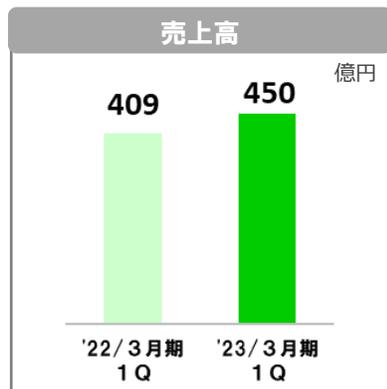
- 「プラスチック資源循環促進法」の施行に伴い、使い捨てプラスチック削減への動きが加速、国内での社会実装が広がる。欧米では大手ブランドホルダーとの共同開発が進展
- わが国の「バイオものづくり」政策において、Green Planetが中核技術の実用例として高く評価。水素酸化細菌によりCO<sub>2</sub>と水素からGreen Planetを生産する技術開発計画がマスメディアでも取り上げられ、注目を集める



# 事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

**売上高** 450億円 (前年同期比 +10.1%)

**営業利益** 46億円 (前年同期比 +0.3%)



## Foam & Residential Techs

- EPS、KLFは原燃料価格が上昇するなか、価格転嫁を実施
- EPOは世界的な自動車減産の流れが続くなか、販売が低調に推移

## PV & Energy management

- 国の再生可能エネルギーの普及促進の動き、原油高騰や電力不足の懸念から住宅メーカーのZEH比率向上の取り組みが活発化、住宅向けの高効率太陽電池販売が拡大
- ZEBの社会実装化を背景に「シースルー太陽電池」「壁面設置型太陽電池」の需要が拡大

## E & I Technology

- スマートフォン向けポリイミドフィルム、有機ELディスプレイ用ポリイミドワニス、TV向けアクリルフィルム用樹脂の販売が順調に推移
- アクリルフィルム用樹脂は、今後も需要が拡大することから、生産能力増強を決定

## Performance Fibers

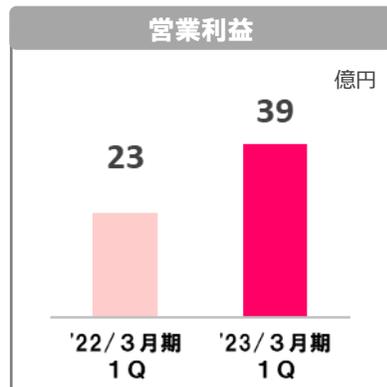
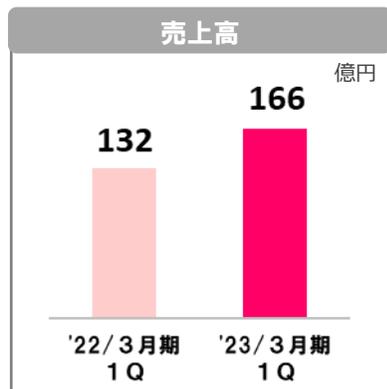
- アフリカ向け頭髮製品の需要が堅調に推移し、難燃資材向けも欧米を中心に順調な販売
- 原燃料価格高騰に対し価格転嫁を進める



# 事業概況 (Health Care Solutions Unit)

**売上高** 166億円 (前年同期比 +25.7%)

**営業利益** 39億円 (前年同期比 +66.9%)



## Medical

- 国内、海外の症例数がコロナ前まで回復、A S O治療用などの血液浄化器、カテーテルは販売が順調に拡大
- ベトナム工場の能力増強を完工。今後、供給体制の強化を進め、グローバル展開を加速
- P C R検査キットに続き、新型コロナウイルス抗原検査キットを発売し、感染拡大の防止に貢献

## Pharma

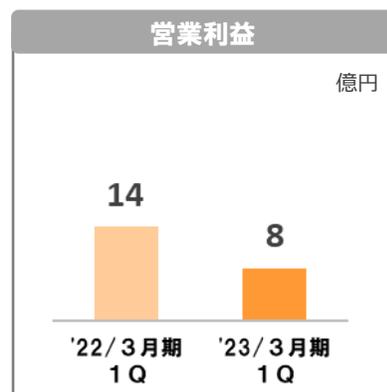
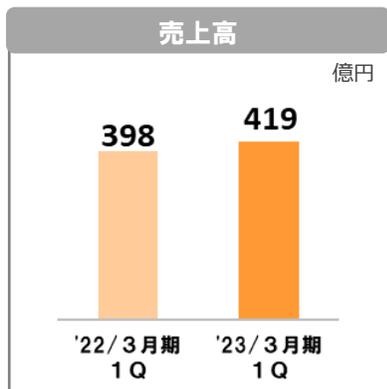
- バイオ医薬品は、カネカユーロジェンテックでのコロナワクチン受託製造が順調
- ベルギーのルーヴァン・カトリック大学とのバイオ医薬品の生産技術の共同研究の実装化を急ぐ
- 低分子医薬品は、抗ウィルス薬の新規大型案件や抗体医薬品精製用のプロテインA担体の販売が業績に寄与



# 事業概況 (Nutrition Solutions Unit)

売上高 419億円 (前年同期比 +5.3%)

営業利益 8億円 (前年同期比 △43.6%)



## Supplemental Nutrition

- 還元型コエンザイムQ10の販売が堅調に推移
- 国内向け機能性表示食品の「わたしのチカラ」還元型Q10配合シリーズのラインナップを強化

## Foods & Agris

- 一部で需要の回復がみられたが、記録的猛暑や食品値上げ報道等による買い控えもあり、販売は低調
- 油脂等原材料価格の高騰に対して価格改定を進め、スプレッド確保に注力
- 新たな機能性表示食品「わたしのチカラQ10ヨーグルト」「わたしのチカラQ10ヨーグルトドリンクタイプ」を発売
- おいしさと健康をテーマとした商品を充実させていく



# 貸借対照表

(単位：億円)

	2022年3月末	2022年6月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,629	3,836	207
固定資産 等	3,640	3,704	64
資産合計	7,270	7,540	271
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,276	1,325	48
その他	1,871	1,957	86
負債合計	3,148	3,282	134
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,872	4,003	132
非支配株主持分 他	251	255	4
純資産合計	4,122	4,258	136
負債、純資産 合計	7,270	7,540	271
自己資本比率	53.3%	53.1%	
1株当たり純資産	5,934.36円	6,135.77円	

- Material SUで海外市場が堅調、Health Care SUの事業拡大で総資産額、純資産額は、過去最高
- 総資産は、売掛金や棚卸資産の増加等により増加
- 負債は、買掛金や借入金の増加等により増加
- 純資産は、為替換算調整勘定の増加等により増加



# 連結業績予想などの将来予測情報

- IMFは2022年世界GDP成長率の見通しを3.2%に引き下げ  
歴史的インフレ、欧米の大幅な利上げ、中国のロックダウンを契機としたアジアの成長鈍化、  
ウクライナ情勢の膠着化、コロナ感染の再拡大などが重なり、世界経済は急減速
- 今後、産業別に一時的な需要調整局面入りも想定、事業環境の不透明感は強まる
- 引き続き環境変化に対する「Adaptability」力を最大に発揮、海外市場における  
強いグローバルネットワーク力を活かして、コア事業群（Vinyls、MOD、Fiberなど）の競争力の向上、  
先端事業群（Health Care、E&I、MSなど）の成長を加速させ、着実に収益基盤を強化
- 以上のことから、2022年5月12日公表の連結業績予想は変更しない

〈参考〉2023年3月期 連結業績予想（2022年5月12日公表）

（単位：億円）

	2022年3月期 （実績）	2023年3月期 （予想）	増減	
			金額	%
売上高	6,915	7,400	485	7.0%
営業利益	436	480	44	10.2%
経常利益	408	430	22	5.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	265	280	15	5.7%
1株当たり当期純利益	406.01円	420.60円		

【前提条件】 為替レート：120円/米ドル、135円/ユーロ 国産ナフサ価格：80,000円/KL

<IRに関するお問い合わせ>

IR・広報（Investors & Public Relations）部

TEL：03-5574-8090